

「新・湯治」コンテンツモデル調査の実施！

環境省では、今年度、チーム員間の連携や交流から、温泉地活性化のための新たなコンテンツが創出されることを期待して、モデル事業を実施しました。6件の応募があり、外部有識者の意見を踏まえ、新温泉町、鳴子ワカモノ湯治、(株)ベーシックの提案3件を採択。今回は、その実施経過[概要]を報告します！

温泉地×温熱×リラックス [湯村温泉] 実施者：新温泉町 [おんせん天国室]

- 湯村温泉（兵庫県）では、「身体を温める」をコンセプトに、高温で豊富な温泉と温泉熱で温められた川沿い空間を活用した体験プログラムを、健康事業を大阪府、兵庫県内で行う企業5-R E L A X（ゴリラックス）*1と連携して企画。京阪神の都市住民に体験してもらい、そのニーズ等を把握しました。
- 11月11-12日の二日間にわたって、身体を温めるための運動、食事、体験などのプログラムを提供。5-R E L A X 指導のコンディショニング（温熱リラックスと朝アクティブ）で身体の調子を整えました。



春來川の河川敷でお尻に温泉熱を感じながらコンディショニング（夜間）



湯村温泉の水辺の風景（昼間）

- また、ワークショップを行い、日々のボディケアの重要性と取組方を学ぶとともに、宿泊先の協力のもと、「身体に優しい」創作会席と朝食を提供するプランも体験しました。
- 参加者からは、「フィットネスなどで行っているヨガでは味わえない、自然の中で、さらに温熱を利用することで味わえる爽快感は格別」「湯村ならではの体験ができた」などの高評価をいただいた一方、コンディショニング等に関する事前の情報提供不足や、河川敷の環境を活かすための装具の改善など、課題も明らかとなりました。

*1トレーナー派遣やフィジカル・コーチとメディカル・スタッフによる会員制ジムの運営など、アスリートに対するコンディション調整やトレーニング、メディカルチェックなどを行う企業。

温泉地×身近なマイノリティ [東鳴子温泉] 実施者：鳴子ワカモノ湯治*2

東鳴子温泉
ひとにやさしい
温泉地プロジェクト

私たちのまわりには、温泉が好きでも入れないひとがいます。知らないひととお風呂に入るのがつらいひとがいます。たとえ、からだがこころの性不一致いひり、たとえ、手傷を受けてからに傷が残っているひと、人目を気にせず、心からリラックスできれば、もっと多くのひとが温泉を楽しめるはず。東鳴子温泉の6軒の旅館には、無料で、いつでも入れる貸切風呂があります。東鳴子温泉には、湯治に訪れたひとを分け隔てなく迎えてきた伝統があります。すべてのひとが温泉を楽しむように、東鳴子温泉でかこそできること。

湯治ウィークに配布されたチラシ

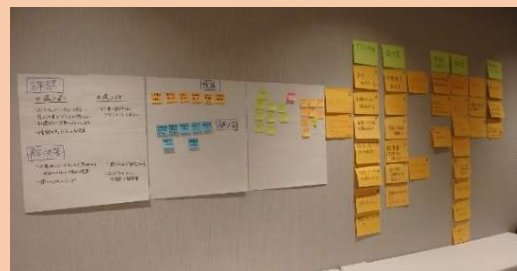
- 東鳴子温泉（宮城県）では、11軒ある温泉旅館のうち6軒で宿泊者は無料で入れる家族風呂や浴場の貸切制度があります。
- 他の温泉地にはないこの特色を活かして、温泉に“入りづらさ”を感じている身近なマイノリティ（性的マイノリティ、乳がん手術経験者等）の方が、日々の行きづらさを忘れて心身の休養・保養ができる環境づくりを「ひとにやさしい温泉地プロジェクト」として進めています。
- 地元温泉地のほか、性的マイノリティの当事者と支援者の団体「東京大学TOPIA」の協力を得ています。性的マイノリティの温泉利用に関する調査では、周囲の視線などから、日頃多くの方が温泉の利用にあたって課題を抱えているという結果が得られ、乳がんの患者コミュニティからも、温泉旅行を諦めていた人も多いという話を伺いました。
- 「湯治ウィーク」（9月23-29日）中に、6軒の旅館の宿泊者に対して貸切風呂の感想やプロジェクトへの意見をアンケート調査した結果、一般宿泊者42名から回答を得て、多くの方からプロジェクトに対する賛同、理解を得ました。一方でマイノリティ当事者の方への調査は難しく、別途モニター調査を実施しています。
- 実際に現地を来訪した当事者の方々はコンセプトに賛同する一方で、案内を充実させてほしいなどの意見が聞かれました。

*2鳴子ワカモノ湯治は、東大温泉サークルOKRが実施する複数あるプロジェクト（チーム）の一つ。

温泉地×Business Woman & オープンバージョン

【伊豆修善寺温泉】 実施者：株式会社ベーシック

- 温泉地という、心も体も開放的になるリフレッシュできる環境の中で、さまざまな企業の業種・部門の、Business Womanたちが集い、温泉や自然と楽しみ、交流することで、思考の枠組みを外す、オープンバージョンミーティングの実証を伊豆修善寺温泉で行いました。
- 株式会社ベーシック（企画・プログラム構築・運営支援）と、伊豆マリオットホテル修善寺（泊食・アクティビティ等プログラム協力）、プレジデント社「PRESIDENT WOMAN」（取材・集客協力）が連携して、12月14-15日の二日間にわたる「温泉地ミーティング」を開催。



参加者より出された意見等



各チームからの発表の様子（伊豆マリオット修善寺にて）

- 10名の女性リーダー（BusinessWoman）が、温泉地ならではの自然、温泉によるリフレッシュ効果、独特の開放感、リラックス、新鮮な食という恵まれた環境の中でリフレッシュしながら、オープンバージョン（情報交換し、互いに向上を目指す）を目的としたディスカッションや、アクティビティ&リフレッシュプログラムなどを実践しました。
- 参加者からは、職場や自宅を離れ、温泉地という恵まれた環境で実施するため、脳がリフレッシュされ仕事モードから切り替えでき、さらに、企業の垣根を超えて女性リーダーがディスカッション&合宿することで、女性活躍推進の意欲向上にも繋がるという意見があげられました。

チーム員の紹介

チーム員である、一般財団法人ロングステイ財団、株式会社トータルフードの2社にそれぞれの活動内容や温泉地の可能性などについてお話をうかがってきました。

一般財団法人ロングステイ財団

- ロングステイ財団さんは、ロングステイに関する動向調査やセミナーなどでの情報発信、ロングステイに取り組む方同士をマッチングさせる取組を行っています。
- 毎年発行されている「ロングステイ調査統計」（2019年版）によると、4泊以上のロングステイを行う人の割合が増加傾向にあること。また、海外に目が向きがちだったロングステイも最近是国内に転じ始めている傾向が見られたそうです。働き方改革による意識の変化や、ロングステイ時には気候的に過ごしやすいエリアが選ばれ始めているのでは、とコメントをさせていただきました。
- また、ロングステイアドバイザーという資格制度を設け、ロングステイのための環境作りやロングステイ先に関するアドバイスを行っています。こうしたアドバイザー人材育成や、ロングステイの手段の一つとしてワーケーションの推進などにも取り組まれています。
- 「湯治」は日本で最も古いロングステイであり、会員のニーズにおいても「健康」は外せない要素とのこと。今後は、湯治を目的の一つとして楽しめる国内ロングステイの普及啓発につなげていきたいとのことでした。

ロングステイ財団さんにご関心のある方は、下記HPのお問合せページまで是非ご連絡ください。

【お問い合わせ】 <https://www.longstay.or.jp/contact/>

株式会社トータルフード

- 株式会社トータルフードの小倉朋子さんは、宿泊施設や飲食店などへの「売れる店づくり」のコンサルティングやトレンド分析等とともに、全国の郷土食や失われし伝統食など食文化に関する提案や、それらを通じた地域活性化にも取り組まれています。
- 昨今は、「広く認知されている」という要素の上に「自分流にカスタマイズできる」ということが食においてキーワードとなっているとのことでした。
- 宿泊施設から飲食メニューの開発を依頼されることも多く、そのうちの8～9割が温泉地とのこと。温泉地における健康的な食は地元であり、新鮮で、地産地消できる、旬のものが第一。ただ、健康にアプローチした食の提供には知識と情熱が必要で、継続的に提供するためには、経営者と従業員が一丸となって哲学をもって取り組むことが重要。そこから提案することもあるとのこと。
- そして、温泉地の食の可能性を十分に引き出すためには、アンテナを広げて、それに取り組む人員の働く環境などもあわせて整えていく必要もあると、食への総合的なアプローチの重要性についてお話いただきました。



株式会社トータルフードさんにご関心のある方は、下記HPのお問合せページまで是非ご連絡ください。

【お問い合わせ】 <http://totalfood.jp/contact/>